

Show Our Campus ! !

代表者 西本唯真（人文B3年）
構成員 森野美由紀（人文B3年） 松下真子（人文B3年）

1. プロジェクトの目的

学内案内と新しい地図の作成を実施することで、学内活動における移動に関する時間の浪費と不安を解消する。

2. プロジェクトの内容

必要に応じてひとり1人に合わせた学内案内を実施する。また、既存の学内マップは数多くあるが、建物の表記が立体で位置が把握しづらいものや記載されている情報が現在の学内状況と一致していないもの、ピクトグラムがないものなど、利便性と実用性に欠けるものがほとんどである。そのため、現状に適した地図となるように、大学で生活する上で必要な情報を盛り込んだよりわかりやすい、学生目線のマップをイラストレーター使用の上で作成する。以上二つにより、構成員のコミュニケーション能力の向上と山口大学への理解を深め、来学者及び山大生のアクセシビリティ支援と不安解消に資する。

3. 現在までの活動状況

3-1 フランス留学生への学内案内活動

大学見学に来られたフランスからの留学生の方への学内案内を実施。初め、人文学部について詳しく知りたいとのことだったが、落ち着いて話を聞くと「英語の講義が多いところがいい」など、彼女の知りたいことが徐々に明確化した。そこで、人文学部以外にもこのような学部があると紹介すると国際総合科学部に興味を持たれた。詳しく知りたいとの要望に応え、国際総合科学部の学務へ案内した。本当に志望したい学部が決まり、「本当にありがとう。あなたが一番親切だった。」と御礼の言葉を頂いた。知りたかった情報を得ることができて満足した様子で帰宅された。この件で、学生ならではの学内案内を実施することができ、対話を通じた丁寧な学内案内の重要性を再確認した。

3-2 仮地図の作製

大学内を歩いて実地調査を実施。従来の大学 HP で配布されている地図の問題点を洗い出し、それを基板として仮地図作成に取りかかった。人が多い場所で誰が見てもわかりやすいように工夫されていると考えられる駅地図やショッピングモール等の地図を参考に、立体的でなく、また掲載情報を最小限にした地図を作ることを目標とした。



仮地図

3-3 オープンキャンパスにおける学内案内の実施

事前に入試課から活動許可を得て、学生自主活動ルーム及びその前の廊下にて案内による来学者のアクセシビリティ支援と試験的な地図の運用による仮地図の品質向上を目的に学内案内を実施した。

構成員とボランティアを含め、5人で活動を行い、案内の所要時間を一人おおよそ15分として一時間に20人対応できるようにした。ボランティアを含め、構成員は大学のビブスを身につけることを原則とし、イベント当日までにオリエンテーションを複数回行い、トラブルのないように努めた。

当日、構成員は来学者に道を訪ねられた場合はもちろん、自主活動ルーム内外でお困りの来学者を発見した場合も主体的に声をかけ、案内を申し出た。その際、「よければ、目的地までご案内します」などと提案し、目的地までの同行を希望するかどうかを伺い、また案内の道中には、目的地に関する情報提供などを行い来学者の不安解消に尽力した。最終的に総勢45人の方に学内案内を提供することができ、たくさんの「ありがとう」の感謝の声を頂くことができた。また、オープンキャンパスでの学内案内活動に参加してくれた構成員からの感想には、「初めは足踏みして声を出せなかったが次第に自分から話しかけられるようになった。次回はもっと積極的に声をかけられるよう頑張りたい。」「人の役に立てることが嬉しかった。」等、前向きな意見が寄せられた。今回の活動は構成員のコミュニケーション能力向上にも繋がったと考える。現在はオープンキャンパスでの学内案内活動から得られた反省点を踏まえて地図を再編している。



学内案内活動実施中

4. プロジェクト進捗情報 (60%)

4-1 実施済み事項

- ・現在配布されている地図の調査
- ・学内視察
- ・仮地図の作成
- ・仮地図の実用性の調査
- ・入試課へオープンキャンパスでの活動許可願提出
- ・オープンキャンパスでの学内案内活動の実施
- ・地図の再検討

4-2 実施済み事項

- ・ホームカミングデーの参加
- ・地図の再検討
- ・裏面の作成
- ・印刷業者に依頼
- ・マップの普及

5. 予算使用状況

使用額：23,559円（予算額：90,460円）